

特別支援教育研究部会

I 研究テーマ

『特別な支援を必要とする子どもたちの望ましい理解と支援体制の確立をめざして』

II テーマ設定の理由

特別な支援を必要とする子どもたちのニーズは様々である。それら一つ一つに応えるためには、専門的知識に裏付けられた確かな児童生徒の理解と、校内支援体制および他機関・保護者との連携が重要である。そのための基本的な考え方や手だてを多方面から探っていく必要がある。

III 研究組織

テーマ別に3つの班に分かれて研究を進める。(教育課程・児童理解・通常学級)

IV 研究の経過と内容

4月10日 <第1回部会総会> (全体：組織作り、年間計画)

役員・研究組織の決定(3班編成<授業実践・生活支援・通常学級>)

全体研究計画(日程、班責任者等)の決定

5月15日 <第49次春季教育研究集会> (全体集会)

<第2回部会研究会> (班別)

各班の研究計画決定<授業実践・生活支援・通常学級>

(研究日程、実践発表者、司会者、記録者、会場校等)

6月17日 <第3回部会研究会> (班別)

[教育課程] ○北新小「自閉症・情緒障害児学級の指導事例」

・自立活動～マンモスを作ろう～ 他、運動会への参加と国語の取り組み

○舞鶴小 「生活単元学習 ～『ともだちや』の劇作り～」

[児童理解] ○附属特支「実態把握の方法」

○附属特支「子どもたちをより理解するために

『多方面から考える目』を持つススメ」

[通常学級] ○富竹中「周囲とのトラブルの多い生徒、不登校傾向にある生徒の事例」

○善誘館小「登校しぶりのある児童への対応」

8月 7日 <第4回部会研究会> (班別) <第49次教育研究集会> (全体集会)

- [教育課程] ○朝日小「知的学級と情緒学級の合同学習、他校との交流学习」
○玉諸小「自閉症・情緒障害学級の2年生女兒Yさん 自立活動の指導」
- [児童理解] ○国母小「児童理解と心理的な安定を図る支援について」
○東中「肢体不自由特別支援学級での支援の実際」
○城南中「障害のある生徒の日常生活支援と進路指導」
○附属支援「子どもの行動の内面を探る」
- [通常学級] ○城南中「院内分校の様子」
○城南中「肢体不自由学級在籍生徒の交流受け入れについて」
○石田小「支援の必要な児童への取り組み」
○伊勢小「通級指導教室と通常の学級について」
○千塚小「社会性・興味・コミュニケーションについての特異性」

8月20日 <第5回部会研究会> (班別)

- 附属特別支援学校サマーセミナー参加

9月 4日 <第6回部会研究会> (班別)

- [教育課程] ○西中「知的障害学級の教育課程について
～各教科、生活単元学習「市内林間学校のスタントの取り組み」～
- 山城小分校院内学級「病弱虚弱教育の取り組み」
○大國小「交流学級での音楽～リコーダー指導～」
- [児童理解] ○富竹中「自閉症・情緒障害学級における指導」
○石田小「A君に関わる支援の実際」
- [通常学級] ○附属特支「通常の学級の授業参加に困難を示す
発達障害のある生徒に関する支援」
○北中 堀口千栄「気になる生徒A君・B君・C君・D君の事例」

10月 2日 <第7回部会研究会> (班別)

- [教育課程] ○新田小「買い物学習への取り組み」
○大里小「知的障害学級の1、2年生の指導について」
○北西中「自閉症・情緒学級での音楽の授業実践～リズム演奏～」
- [児童理解] ○北新小「これまでの取り組みからの課題」
○城南中「ソーシャルスキルトレーニングについて」
○南中「野菜作り体験で様々な力を身につける」
- [通常学級] ○中道北小「配慮を要する児童への対応」

- 中道南小「特別支援学級在籍児童に取り組ませたい課題」
- 上 条 中「気になる生徒たちの実状とその支援について」

11月 4日 <第8回部会研究会> (ブロック・全体) ~予定~

- 各班の実践および研究の反省
- 県教研還流報告

1月27日 <第9回部会研究会> (全体) ~予定~

- 全体研究の反省・次年度に向けて

V 研究の成果・課題

本部会研究会の特徴は、実際の現場での取り組みを中心に、特別支援教育が抱える様々な問題をお互いに知り、解決の方法を探るところにある。しかしながら、特別支援教育の担当者が、毎年新しく入れ替わる場合も多く、そのため継続的な研究を積み重ねることができないという問題も抱えている。しかし、今目の前にしている児童生徒をどのように支援していくか、という切実なニーズに具体的に答えられる研究会として、その役割は大きい。

本年度も昨年と同じく、テーマ別に「教育課程」「児童理解」「通常学級」の3分野に班を分け、各校種の教職員が均等に所属し連携を深められるように配慮した。また、本年度も昨年度に引き続き、附属特別支援学校のサマーセミナーに参加し、特別支援学校による地域連携の活動（研修活動）を実際に行った。

各班とも、目の前の児童の実態に応じ、様々な角度からの意見が多数出されるようになり、部会研究が活発化した。特に、小学校から中学校・高校、通常学校から特別支援学校といった進路の問題については、長い見通しを持った意見も交わされ大変参考になった。

我々が目指している特別支援教育のインクルーシブ化への取り組みについても、本年度1月に障害者権利条約が批准され、国内の法整備も進められている。時代の幕開けが感じられると共に大きな混乱も予想され、今後も本研究会のさらなる充実が求められている。